

## 医院で

リースル・カールシュタット 次の方どうぞ。

カール・ファレンティン こんにちは、先生。

LK こんにちは、マイヤーさん。どういたしました？

KV それが、先生、胃の具合が悪いです。食事をする、そのたびにお腹がいっぱいになるんです。

LK それは病気ではないですな。胃に何か入れると、いっぱいになるのは理にかなっておりますよ。何も食べないと、どうなりますか？

KV まったく逆です。そういう時は空腹を感じます。

LK そうでしょう、それならあなたの胃は健康ですよ。

KV はあ、でも、そうすると、階段を登るとハアハアするのはどうしてなんですか？

LK ふむ、それは誰だってハアハアしますよ。でもそれは胃とは関係ありません。肺の問題です。

KV 肺は健康です。肺はどこも悪くありません。二年前に足を骨折したにもかわらずね。

LK そうですか。足を折ったのですか、どうしてそんなことになったのです？

KV 酒を飲み過ぎましたね。

LK 酒で足が折れることはありませんまい。

KV もちろん、酔っぱらったのです。それで外国産のバナナの皮に滑って、足を折ったんですわ。

LK それなら酒のせいではなく、バナナの皮のせいですな。

KV 言うまでもなくバナナの皮のせいです。それが目に入らなかつたんです。で、先生、私、思ったんですけど、目がどうかしてるんじゃないかと。例えばね、家で新聞を読んだと、腰痛ができて、読んでられなくなるんです。

LK でも、マイヤーさん、目が悪いからって腰痛にはならないでしょう。

KV なりますよ。目と腰クロムシはきつとこっさりつながってるにちがいないで

す。だって年寄りが「目がよく見えないのはまったく不自由だ」<sup>クロイツ</sup>って嘆くのをよく聞きますよ。

L K ふむ、マイヤーさん、新聞を読むのを減らして、その代わりに、果物を余計、食べなさい。果物は健康にいいですよ。

K V 全部が全部そうでもないでしょう、先生。知人の一人はもうちょっとで、すももでのどを詰まらせるところでした。

L K いくつになられますか、マイヤーさん。

K V 先生、まもなく、女房よりも十、上になります、はい。

L K なるほど。で、奥さんはおいくつですか？

K V うちの女房は、今、今、ちょっと言えません。

L K まあ、たいしたことじゃない。腸の具合はいいですか？

K V 女房の？

L K いえいえ、ご自分のです。

K V ああ、私のですか ええ、ええ もちろんです 先生を信頼し

て申し上げるんですが……（K Vは医者の耳に何かささやく）

L K なるほど、ハハハハハ それなら、やめときましょう。そうしたら、

ヒマシ油ではなくアヘンチンキでも処方いたしましょうか マイヤーさん、

お仕事は何でしたっけ？

K V はしご製造業です。

L K ほお、消防署のあの長いはしごを作ってるんですか？

K V いや、いや、アマガエル用のごくちっぽけなやつですよ。

L K あなたのおっしゃることは、面白いですな。まあ、はしごははしごですな。本題に戻りましょう、マイヤーさん。ちょっと下痢気味ですけど、他には悪いところは見あたりませんか。あなたはまったく健康です。

K V ええっ？ 健康なんですか？ そんなに健康なら、何のために保険に入っただら？！